

盛岡生活日記 2

2021/03/13

DEEP ACID

目次

- 今年は豪雪だったらしい
- やっぱりローカル線の旅は楽しい
- 地方には古い物が残っている
- 震災10年について

今年は豪雪だったらしい



結局、震災より雪だった(1)

- 当然、東北に住むようになってから、ニュースでは毎日のように復興に取り組む人々の姿が取り上げられていた。しかし、盛岡生活では結局、それらは現実的な実感につながることはなく、首都圏にいた頃と同様、傍観者のままで終わってしまった。
- やはり現実に直面したのは冬の厳しさであった。家が潰れるほどの積雪こそ見なかったものの、道路では除雪車が雪を掻き分けないと本当に道が通れなくなるほどの降雪を毎日見てきた。通勤路そのものが降雪でホワイトアウトし、通勤で遭難するんじゃないかと思うくらいのも場面にも遭遇した。まさに冬の盛岡で実感したのはそこであった。

結局、震災より雪だった(2)

- むしろ、そんな現実にさらされた自分としては、宮古、釜石、久慈と言った三陸沿岸は、確かに復興の中でやたら高い沿岸防災壁を見てきたが、それよりも、盛岡より雪が少なく、海産物が豊かな土地だ、と言うプラスの面しか見られなかった、と言うのが正直な感想。

やっぱりローカル線の旅は楽しい



ローカル線の旅

- 首都圏の混雑とは無縁の世界

公共交通機関を使うと言っても、三密を気にするような場面は滅多になかった。

- 本数が少なくても、前もって計画しておけば問題なし

というか、計画しなけりゃ思いつきでは旅は出来ない。制約の多い中で、どうやって旅を楽しむか。

- 外は雪でも列車内は暖かい

単身アパートよりよっぽど暖かい（笑）。

地方には古い物が残っている



地方には古いものが残っている

- 地方で昭和を再発見する

首都圏は開発に金をかけられるので、開発で失われたものが多いが、地方には資金がないことで、壊されない昭和がある、という評価の仕方はあって良いのではないか。

- 伝統は力

首都圏は人の流れが速いので、時間の流れも速い。時間が止まっている負の面もあるが、正の面を掬い取っていく必要がある。

震災10年について

- 大雪に見舞われて、東北の十巻は震災復興より雪の影響に気を取られたが、そのことは岩手県民も感じている。すなわち、盛岡のような内陸の人々は、三陸の被害を実感できずに日常を過ごせていることに後ろめたさを感じている人も少なからずいるということ。
- 個人的には、周囲の人の不幸を、何も助けられないからと言って罪悪感を覚えたところで不幸は人が増えるだけで問題の解決にならない。むしろ、盛岡内陸部がさらに発展することで三陸に援助できることが増えるのであれば、盛岡内陸部が盛り上がるのが重要なのではないか。